

議会だより わどまり



第168号

CONTENTS

こんなことが決まりました 2P

(第2回臨時会・第2回定例会)

8名の議員が町政を問う 5P

編集後記 12P



左の三次元コードをスマートフォン
などで読み取ると、町議会のホーム
ページにリンクします。

去る4月18日に東弘明議員から一身上の都合により、副議長を辞職したい旨の願いが提出され、閉会中であったため地方自治法第108条の規定により、議長において同日に許可した。

5月1日に行われた令和7年第2回臨時会では、副議長の選挙と議会運営委員会の選任が行われた。

■令和7年 第2回 臨時会(5月1日)

議案番号	件 名	議事結果
選挙 第1号	和泊町議会副議長の選挙について(投票)	当 選
選 任 第1号	和泊町議会運営委員会委員の選任について	可 決



副議長に喜井和夫議員が当選!!



副議長 喜井 和夫

就任挨拶

この度、副議長に就任いたしました。

町民の皆様との意思疎通を充実させるとともに、多様な意見で議論の出来る議会となるよう取り組んで参ります。

皆さんの力を借りながら、いい雰囲気の議会作りをいたします。

町民の皆様のご理解、ご協力を宜しくお願いします。

議会運営委員会において委員の互選が行われ、議会運営委員会委員長に副議長の喜井和夫議員が選出された。

■第66回奄美群島市町村議会議員大会

令和7年5月20日(火)、伊仙町(伊仙町総合体育館)において「第66回奄美群島市町村議会議員大会」が開催されました。

和泊町・知名町・与論町においては、3町を代表し、本町議会総務文教常任委員長の島田浩樹議員が代表で提案理由の説明を行いました。

【和泊町・知名町・与論町】提出議題

◎持続可能な部活動地域展開等について

(要 旨)

部活動の地域連携・地域展開について、離島は本土のように民間スポーツクラブ等がなく、職を持ち終業後に部活動指導員として配置されている。また部活動指導員が遠征等に帯同する場合、勤務先の年次休暇扱いとなり、このような理由で指導員を確保することが困難である。また指導員が辞めてしまった場合、指導員の補充が難しく生徒への影響が懸念される。

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革において、部活動顧問の負担は軽減されつつあるが、終業後に指導する部活動指導員の負担は大きい。地域展開に伴い、地域スポーツ・文化活動推進事業費補助金(国 1/3、県 1/3)が交付対象外となる。部活動指導員の報償は保護者負担となり、家庭の経済状況によっては生徒の体験格差に繋がる。

以上のことから、離島における部活動の地域展開に関し、下記事項について強く要望する。

記

- ①学校部活動は、これまで教育活動の一環として実施されてきたものであることから、地域展開については国が中心となり積極的に支援し進めるべき施策である。
- ②地域展開へと名称を変更したことに伴い、学校を中心に地域へ展開していくと思われるが、今後も顧問の負担軽減を図りつつ持続的な取り組みとして、これまで同様の財政支援を行う。
- ③専門性や資質を有する指導員を確保するため、国において財政措置を講じるとともに、部活動の段階的な地域展開等に向け、部活動指導員の養成・配置に係る財政措置の継続・拡充を図ること。



▲提案理由の説明を行う、島田浩樹総務文教常任委員長

■令和7年 第2回 定例会(6月10日～13日)

議案等番号	件名	議員名（議席番号順）												議事結果
		市来 武次	川 間 哲 志	中 村 悠 子	山 口 明 日 香	島 田 浩 樹	松 村 靖 江	池 田 正 一	東 弘 明	中 田 隆 洋	桂 弘 一	喜 井 和 夫	永 野 利 則	
報2	事故繰越に係る事故繰越計算書について	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
報3	繰越明許費に係る繰越計算書について	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
報4	繰越明許費に係る繰越計算書について	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
報5	繰越明許費に係る繰越計算書について	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
請1	和泊町総合交流施設建設計画の計画見直しを求める	◇	◆	◇	◇	◆	◆	◆	◆	◇	◆	◆	—	不採択
陳1	ゆたかな学びの実現・教職員定数改善、義務教育費国庫負担制度の負担率の引上げをはかるための、2026年度政府予算に係る意見書採択の陳情について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	採択
陳2	「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書採択の陳情について	◆	◇	◆	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	—	採択
承2	専決処分の承認を求めることについて(和泊町税条例の一部を改正する条例の制定について)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	承認
承3	専決処分の承認を求めることについて(和泊町税条例の一部を改正する条例の制定について)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	承認
承4	専決処分の承認を求めることについて(和泊町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	承認
承5	専決処分の承認を求めることについて(令和6年度和泊町一般会計補正予算 第10号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	承認
承6	専決処分の承認を求めることについて(令和6年度和泊町一般会計補正予算 第11号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	承認
承7	専決処分の承認を求めることについて(令和6年度和泊町国民健康保険特別会計補正予算 第5号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	承認
承8	専決処分の承認を求めることについて(令和6年度和泊町介護保険特別会計補正予算 第4号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	承認
承9	専決処分の承認を求めることについて(令和6年度和泊町後期高齢者医療特別会計補正予算 第3号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	承認
承10	専決処分の承認を求めることについて(令和6年度和泊町奨学資金特別会計補正予算 第1号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	承認
議33	奄美群島体験交流推進施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
議34	和泊町辺地に係る総合整備計画の変更について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	可決
議35	和泊町過疎地域持続的発展計画の変更について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	可決
議36	物品購入契約の締結について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	可決
議37	工事請負契約の締結について(IR6繰越)防災行政無線更新工事)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	可決
議38	工事請負契約の締結について(町営住宅手々知名団地改修工事)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	可決
議39	損害賠償の額の決定について(戸籍総合システム機器更新事業)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	可決
議40	令和7年度和泊町一般会計補正予算(第1号)の議決について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
議41	令和7年度和泊町介護保険特別会計補正予算(第1号)の議決について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
議42	令和7年度和泊町下水道事業会計補正予算(第1号)の議決について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
議43	令和7年度和泊町水道事業会計補正予算(第1号)の議決について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
発8	ゆたかな学びの実現・教職員定数改善、義務教育費国庫負担制度の負担率の引上げに係る意見書	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	可決
発9	「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	可決
発10	町長に対する問責決議案	◆	◇	◆	◆	◇	◇	◇	◇	◆	◇	◇	—	可決
	議員派遣について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	可決
	議会運営委員会の閉会中の継続調査申出書について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	可決
	各常任委員会の閉会中の継続調査申出書について	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	可決

※永野利則議員は議長職のため、特別多数議決以外の議案については表決(賛成・反対の意思表示)権はありません。

賛成反対がわかれた案件(令和7年 第2回定例会)

請願第1号 和泊町交流施設建設計画の見直しを求める（賛成4 反対7）

〈反対討論〉

川間哲志議員

この請願を読んだのですが、建設を中止するというふうに受け取ってよろしいのでしょうか。今まで、これだけ議論を積み重ねてきて建設を中止することは、ちょっと理解できなくて、中止することは考えられません。よってこの請願に対しては反対したいと思います。

〈賛成討論〉

市来武次議員

現在、大規模なハコモノが必要なのかということで、現行の計画を見直していただきたいという内容になっている。総合振興計画にある「ようていあしばプロジェクト」の総合交流施設という点からは魅力的な部分もある。中止一辺倒ではなく、今後、仮に学校再編なども進んだ場合に跡地利用も含めて、総合交流施設を議会でも考えていきたいというところで、計画の見直しについては、私は賛成させていただく。

陳情第2号 「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書採択の陳情について（賛成9 反対2）

〈反対討論〉

なし

〈賛成討論〉

なし

発議第10号 町長に対する問責決議案（賛成7 反対4）

〈反対討論〉

市来武次議員

提案理由のところに「町民をだます行為」とであると主張している。「町民をだます行為」をしたのであれば、不信任決議を出せばよい訳であり、なぜ法的拘束力もない、勧告のような問責決議案という形にしたのか。まさか解散を、恐れて保身に走ったということであれば、賛成者を含めた7名は政治姿勢を問われるというふうにいる。私自身がもし、首長が町民をだましたと判断した時は、真っ先に不信任を出します。よって、この決議案については賛同できない。

山口明日香議員

町長の総合交流施設に関する発言の変化や説明不足は反省点ですが、問責に値するとは思いません。地方自治では、社会情勢や町民の声に応じて計画を見直すのは当然であり、今回の判断も慎重で町民を尊重したものと受け止めています。教育委員会との情報共有の不足は今後の課題として改善すべきですが、それをもって独裁的と決めつけ、責任を問うのは行き過ぎです。議会は対立ではなく対話によってまちの未来を考える場であるべきです。冷静な議論を重ね、町民の信頼を得られる政治を目指すべきだと考えます。

中村むつ子議員

話をするたびに論点がずれていく。決議案に書いてある騙したとか、挙げ句の果てには島田議員が人間としてという言葉を行いました。議会の中で、その言葉はどれだけ大きなことももう一度考えていただきたいと思います。ゴールは一緒です。町を良くしたい、ただそれだけなんです。執行部も議会も。ディスカッションをせずに、紛糾したとおっしゃっていましたが、紛糾したことを見たことも聞いたこともありません。なぜこういう言葉が出てくるのかもわかりません。議員全員がちゃんとディスカッションした上で、こういう問責決議に出すに至るのであれば、私は賛成ですが、そうでない以上、反対討論とさせていただきます。

中田隆洋議員

今後100億円超の施設更新が控える中、町民の多くは交流施設より福祉・医療・教育への投資を求めています。町長はその声に応え計画の見直しを決断。これは熟議を重んじた責任ある対応であり、問責に値しません。教育委員会との調整も今後の課題であり、独裁的運営との非難は当たりません。政策判断の変更は首長の裁量の範囲内で、人格的批判は極めて遺憾です。対話と調整こそ、健全な地方自治の本質です。

〈賛成討論〉

島田浩樹議員

町長は、第1回定例会において、施政方針、教育行政の重点施策、第四期和泊町教育振興基本計画を鑑みて、当初予算に総合交流施設建設事業費を上程いたしました。議会が審議可決したにもかかわらず、町長自ら上程した施策を反故する行為は、町民をだましていると思う。また当初予算を通した議会に対しても軽視していると感じる。最近の町長の言動は、独断の答弁が数多く、副議長からもありましたが、職員のことなんてないのかなと思う。町長の答弁で町民や議会に、不信と不安を招いた一連の責任は、強く問う決議であると私は思っております。

池田正一議員

総合交流施設について、第2回定例会において、教育委員会や担当職員への話もなく、独断での発表に教育委員会等も困惑しています。よって町長の姿勢を問う問責決議案に賛成します。

川間哲志議員

4年前に選挙に出るときには、反対と言って選挙に出ました。そして、第6次振興計画が非常にすばらしいものだからということで、今度は賛成の方に回りました。今度また選挙対策ということで、およそ1ヶ月ぐらい前に作ったそのチラシを支援者と一緒にとって、「作らないっていう選択肢が、最善だ」としたが、教育委員会や役場の職員との連携を無視するような格好で進めたということは、やはりこの問責に値すると思います。

ココが聞きたい 一般質問 町政を問う!!

令和7年第2回
議会定例会

いけだ しょういち
・池田 正一 議員

新しい未来へ

P5

いちき むつく
・市来 武次 議員

挑戦をあきらめない
町づくり

P6

やまぐち あすか
・山口 明日香 議員

和泊町の未来を
共に一歩前へ

P7

かつら ひろかず
・桂 弘一 議員

町の教育行政を
より良いものに

P8

なかだ たかひろ
・中田 隆洋 議員

未来につなぐために

P9

なかむら こ
・中村 むつ子 議員

町民が知って選択できる
情報提供を

P10

かわま てつし
・川間 哲志 議員

4年間の成果

P11

ひがし ひろあき
・東 弘明 議員

誰もが希望を持てる町に

P11

一般質問とは??

議員が町の行財政全般について、事務・予算等の執行状況や、今後の考え・方針を聞き、疑問点を質すこと。



新
しい
未
来
へ



いけだ しょういち
池田 正一 議員

すめ
前町政運営

問 これまでの4年間の成果と課題は。

答 〈総務費〉マイナンバーカードの交付率の向上や

窓口業務のシステム改善、S
STVによる情報の提供、奄
美振興交付金の拡充による沖
縄への運賃助成を含む交流促
進。

〈民生費〉こども未来課を新
設、電動車椅子購入助成事業
等。

〈衛生費〉带状疱疹ワクチンの
接種助成、沖永良部衛生管理
組合の施設整備、生ごみ処理
機(キエーロ)設置助成事業及
び猫の不妊・去勢助成事業等。

〈農林水産業費〉機構集積協力
金を活用した農地の集積等、
農林水産物輸送コスト支援事
業の制度拡充や、飼料・肥料の
高騰対策として各種交付金事
業や重点新規事業を活用した
農林水産業の振興。

〈商工費〉地方創生臨時交付金

を活用し、プレミアム付商品
券事業を実施。また、令和4年
度に「脱炭素先行地域」に選定
され、沖永良部が全国に誇れ
る成果の1つである、経済と
環境が両立する地域モデルの
実現を目指し、再生可能エネ
ルギーの導入や照明機器のL
ED化を進めている。

〈土木費〉無電柱化事業及び空
き家改修事業等を推進し、新
たな取り組みとして自転車活
用のまちづくりへの取り組み
を実施。

〈教育費〉各種交付金やゆりの
ふるさと基金を活用した学校
教育環境の整備、児童・生徒の
島外派遣費用の拡充、物価高

騰対策として給食費の免除及
び子ども夢応援プロジェクト
によるチャレンジへの支援を
行った。

課題は、人口減少対策、歳入
確保対策、水道・下水道施設等
の既存公共施設の維持管理や
統廃合など把握している。

課題の解決は、町民の皆様
や職員と意見交換を交え、現
行の取り組みを強力に推進す
る。

成果としては、1つは「脱炭
素先行地域」に選定されたこ
と、もう1つは「沖縄との連
携」という新たな可能性を制
度として切り拓いたこと。

挑戦をあきらめない町づくり

いちき むつく
市来 武次 議員

公共施設等の維持管理

問 公共施設や公共物の維持管理の方法は。

答 施設の重要度や劣化状況に応じて長期的な視点で優先度をつけて、計画的に改修・更新を行い、今後の社会経済情勢の変化に応じた質的向上や機能付加、用途変更や複合化・集約化を図ることとしている他、年に3回会議を開催し、未利用の公共施設、土地の活用及び施設の維持管理について検討を行っている。

しま暮らし体験住宅

問 稼働実績や住宅利用後の定住人数、定住率は。

答 令和2年度から令和6年度までの5年間で、28世帯40名が利用、そのうち14世帯18名が本町に定住されており、定住率は約45%となっている。体験された多くの方々が、滞在を通じて本町の自然や暮らしに魅力を感じ、町民の人懐っこさや温かさに深く感動し、「また来たい」「いつか住みたい」と語っている。今後は、こうした“ファン”の方々の気持ちを確かな定住へとつなげていけるよう、関係人口の醸成やフォロー体制の強化、住宅・就業支援の充実など、地域ぐるみで一層力を入れていく。

地域活性化

問 地域活性化に向けて、町民や各種団体が「自発的で主体的にチャレンジしたくなるまち」を作っていくべきでは。

答 地域を動かす本当の力とは、「この町の未来を、自分たちの手でつくりたい」と願う人々の情熱だと信じている。だから私は、この町を「挑戦を応援する町」にした

うまくいくかどうかよりも、まず“やってみる”ことが尊ばれる風土を育てていきたい。

そのために、町ができることは、全力で支えていく。それが私の覚悟。最初の一步を、町が信じ、寄り添い、ともに歩む。私はそんな行政でありたいと思っている。“挑戦したくなる町”を、共につくってまいりましょう。

第6次総合振興計画

問 長期計画と現状のズレを埋めるための計画を見直すタイミングや検証方法は。

答 前期・後期に分け、5年ごとに見直しを行う仕組みとなっており、今後は進捗状況を検証し、外部評価委員会等多角的な視点から評価を行ったうえで、後期計画の見直しを進めていく。

あわせて、「第3期わどまり未来予想図プロジェクト」が始動。これは、町の将来像を町民の皆さんと共有しながら、夢と現実をバランスよく重ね合わせていく、いわば“共創の未来デザイン”である。総合戦略と総合振興計画を有機的に結び付け、より効果的かつ柔軟に運用できる体制づくりを進めていく。

和泊町の未来を共に一歩前へ



やまぐち あすか
山口 明日香 議員

子育て支援

問 本町における子育て支援策の現状と今後の方針は。

答 第6次総合振興計画において、「安心で楽しい子育て 夢がある子育てに向けて地域で子育てができる心ゆたかなまちづくりを目指す」ことを基本理念に掲げている。

その実現に向け、妊娠・出産期における母子の心身の健康確保に関すること、乳幼児期における保育環境の整備や学童期の健全育成の推進等、母親の産後ケアやこどもの成

長に係る医療面の支援、こども園の保育環境整備や乳児用品購入助成・こども医療費助成や児童手当の拡充による子育てに係る保護者の経済的負担軽減を図る支援等、ライフステージに応じた施策を展開している。

大きく変化する社会情勢により、共働き世帯の増加や核家族化、少子高齢化など様々な要因により保育ニーズも多様化するなか、今後の子育て支援は、全てのこどもと子育て世帯が、ひとしく、安心して保育や幼児教育を受けられるための取り組みを継続していく。



医療・介護福祉

問 在宅介護を支える訪問介護・訪問リハビリテーションの現状と今後の支援体制は。

答 訪問介護は、時期により従事者の不足はあるが、概ね円滑なサービスの提供が図られている。

訪問リハビリテーションは、専門職の確保が困難なため、事業所が休止している状態となっている。

今後の支援体制は、介護事業者連絡会において、事業者の皆様からのご要望やご提案等を伺いながら、解決に資する施策を実行していく。



町の教育行政をより良いものに



かつら ひろかず
桂 弘一 議員

教育行政

問 町長と教育長部局間で、どのような話し合いがもたれているか。

答 町長と教育委員会で構成する「総合教育会議」では、日頃から密接に連携しながら、町の学校教育や社会教育のさまざまな課題について、教育委員の皆さんと意見を交わしている。

具体的には、児童生徒の学力向上の取り組みや、いじめ・不登校など生徒指導の課題、教育におけるICTの活用、学校の今後の在り方、さらには文化やスポーツを含む社会

教育の推進など、幅広いテーマについて話し合っている。

問 本町の学校教育の現状と課題は。

答 学力面では、国・県の学力学習状況調査の結果によると、学年や学校による差はあるものの、町全体では概ね県や全国平均並みの学力が身に付いている。学びに向かう力などの非認知能力の育成については課題点も明らかになっている。児童生徒が主体となる学びの実現を目指して、各学校で授業改善に取り組んでいく。

今後、児童生徒数が減少し、学校規模が縮小していくことは、大きな課題であると考え、その中でも、和泊町らしい教育活動の推進を維持していくことが教育行政の責任であると考えている。

町長の政策実現と人事

問 人事を行うに当たり、最も重視し大切にしていることは。

答 人事を行う際に最も重視しているのは、「公平性」と「適材適所」、そして「地域への理解と誠実な姿勢」。

職員の能力や業務に対する希望は、毎年実施している自己申告書や人事評価を通じて丁寧に把握しており、それらを踏まえて配置を行っている。

移住・定住施策

問 移住・定住施策の実績と課題は。

答 直近5年間の実績は、97世帯156名の方々が移住され、そのうち75世帯120名の皆様が定住されている。定住率は77%と、非常に高い水準を維持している。

一方で、課題もある。老朽化

が進む空き家の増加、そして住居確保が追いつかず、移住希望者の受け入れ機会を逃してしまうケースが出てきている。空き家対策や住宅供給体制の強化、さらには民間の協力も得ながら、しっかりと改善に努めていく。



未来につなぐために

なかだ たかひろ
中田 隆洋 議員

すすめ町政4年間

問 「脱炭素先行地域」に選ばれたことは。世界的なモデルとしての展望は。

答 全国に先駆けて選ばれ、町民の暮らしを未来にたぐための大きな一歩だと感じている。

太陽光発電や蓄電池といったエネルギーの小さな力をひとつにまとめて、まるでひとつの大きな発電所のように働かせる技術に取り組み、災害時も避難所などに電気を届けられ防災の強化にもつながる。

「小さな島から、世界を変え

る」という夢の実証でもあり、「沖縄良部島の成功例こそが、世界のモデルになる」そう信じている。

問 「こども未来課」の設置による効果や今後の展望は。

答 妊娠・出産から学童期まで、一体的な支援が可能となった。特に、母子保健やこどもの療育・障がいに関する支援に必要となる情報を速やかに共有でき、迅速な対応が可能となった。「和泊町こども家庭センター」も設置し、更に円滑かつ効果的な支援に努めていく。

問 「沖縄との連携」の取り組みや成果、今後は。

答 奄美群島振興開発特別措置法の改正で粘り強く要望し「沖縄との連携」を法制化。離島割引運賃の沖縄への

拡充や、輸送コスト支援事業の対象が広がり、島の可能性は大きく開かれた。販路として「琉球圏産」という新たな価値を生み出していく。また、世界一の観光地である沖縄から沖縄良部島への流れをつくり出し地域経済の柱としていく。「鹿児島県の中にある琉球」を個性として輝かせ未来への礎とする。

問 国や県との連携体制の構築と効果は。

答 これまで、国（国土交通省・農林水産省・環境省）、鹿児島県・沖縄県等に職員の派遣や人事交流を実施してきた。派遣終了後も派遣で培った経験や人脈を最大限に活用し、本町の施策に反映させ、行政サービスの向上が図られている。さらに7月からは環境省の職員を迎え入れ、脱炭素社会の構築に邁進していく。

問 「重点新規事業枠」の事業やアイデアは。

答 若手職員の柔軟な発想と町民ニーズを的確に捉えた施策を予算に反映させる目的。新たなアイデアや事業が積極的に提案され、「乳児用品購入費助成事業」・「こども園環境整備事業」・「高齢者等ハンドル型電動車椅子助成事業」・「家庭用生ごみ処理機等設置費助成事業」・「生分解性マルチ推進事業」・「ふるさと特産品支援事業」・「えらぶゆりリバイバル事業」・「牛舎環境改善事業」・「漁業経営支援事業」など、その他にも多種多様な新規事業を実施。

町民の福祉向上、元気なまち、心豊かに暮らせる社会の実現に向けて取り組む。

町民が知って選択できる情報提供を

なかむら こ 議員
中村 むつ子

新庁舎建設

問 年間の償還額は。

答 総事業費約17億1千万円となっており、起債の償還については年間約9千5百万円、別に庁舎のリース料が年間約3千1百万円を支出している。

ソーラーパネル

問 ソーラーパネルの危険性は。

答 太陽光パネルについては、一部の報道やネット上では、安全性や廃棄物処理に関する負担が取り上げられ

ている。和泊町として導入している設備については、しっかりとした安全基準に基づいて選定・設置を行っている。和泊町が国から「脱炭素先行地域」の指定を受けたことから、堅実な取り組みであると考えている。

導入して終わりではなく、町民の皆さまにとっても安心で安全なものであるよう、丁寧に情報を開示し、責任をもって取り組んでいく。

タラソおきのえらぶの運営状況

問 年間の収支は。

答 令和6年度の年間収支では、収入が4539万9418円、支出が4755万6308円。差引き215万6890円の赤字となっている。

問 町からの指定管理料は。

答 令和7年度に町が計上している指定管理料は2500万円。

収支だけをみると、「町の財政負担が大きいのではないか」といった懸念を持たれる方がいらっしゃいますが、この施設を通じて得ている価値は、収支の数字では測れないものがあると考えている。

この場所が単なる「施設」ではなく、「生きがいの場」「健康寿命を延ばす場」として地域に根付いていることを実感している。



▲タラソおきのえらぶ

新型コロナウイルス

問 国が認めた新型コロナウイルスワクチン接種による死亡者数。

答 令和7年5月22日現在の人数は、1014人となっている。

問 国が認めた新型コロナウイルスワクチン接種の後遺症件数。

答 正確な件数は把握していない。

厚生労働省疾病・障害認定審査会における審査状況では、障害年金認定件数が212件となっている。

問 国が認めた新型コロナウイルスワクチンの賠償件数。

答 進達受理件数1万3675件中、9161件が認定されている。

問 町が国から買った新型コロナウイルスワクチンの金額。

答 国からの配給のため金額は発生していない。

4年間の成果

誰もが希望を持てる町に



かわま 川間 哲志 議員

4年間の前町政について

問 町長就任後、和泊町をどこに導くかを考えて予算

編成に努めてきたと思うが、これまでの実績と課題は。

答 町をどこに導くかは、①「民間の「コスト意識」で徹底的に精査する②年功序列や終身雇用に甘えることなく、やる気や実力のある職員が評価される人事制度により、生産性と町民サービス向上を実現する③総合交流施設は計画を見直す、3点を掲げた。

透明性が高く、町民に包み隠さず、みんなで創り上げる和泊町を目指す!!をモットー

に町政推進を行ってきた。

課題は、実質公債費比率の高止まりや、既存施設の維持管理に関する経費の増大、人口減少に伴う税収減少、ふるさと納税の低迷による自主財源の減少等と認識している。

問 今年度の職員採用が11人と多い。逆に退職率が高いが対策は。

答 令和6年度から新規採用職員等アドバイザー制度を設けており、不安や精神的な不調について早期にサポートし、対応できる制度を運用している。対象職員からの報告を確認すると一定の効果があつたものと評価している。

また、全職員に自己申告書の提出を依頼することで、異動希望や希望職種、保有する資格や能力を把握し、評価している。



ひがし 東 弘明 議員

介護施設

問 現状の問題点は。

答 介護保険施設においては、介護士・看護師等の従事者が不足している状況で、各事業所においては、求人・人材紹介や専門職の派遣等を活用し、人材確保に努める。

また、町としても昨年設置した介護事業者連絡会等を通じて、事業者の皆様からのご要望やご提案等を伺いながら、課題解決に資する施策を行う。

問 運営について、どのように捉えているか。

答 本町の介護保険施設である特別養護老人ホームと老人保健施設の2施設は、事業指定者である県が定期的に運営指導を実施している。

今後とも、県と連携し運営状況を注視して行く。

学校施設

問 和泊中学校体育館にエアコンの設置は。

答 空調の設置は、屋内競技における熱中症事故や、災害時に避難所を提供する上でも必要不可欠と考える。

費用面の課題はあるが、国の支援制度も活用し、断熱性能の向上や維持管理のしやすさも踏まえた形で、空調設置に向け、前向きに検討を進める。

議会を傍聴してみませんか

町の予算や身近な問題について話し合う大切な場で

**だれでも自由に
見たり、聴いたりできます！**



令和7年第3回議会定例会（予定）

日	月	火	水	木	金	土
9/7	8	9 本会議初日 一般質問 (9:30～)	10 一般質問 (9:30～)	11	12 決算審査 特別委員会	13
14	15 敬老の日	16	17 本会議最終日	18	19	20

本会議場での傍聴

●本会議の受付所…役場2階 議場入口

- ①傍聴者名簿に名前を記入
- ②一般質問通告書をもらい入場

テレビでの視聴

●一般質問の様子をサンサンテレビで生放送(再放送2回あり)

編集後記

令和7年第2回議会定例会も終了致しました。

議会改革の1つとして、一般質問の再放送が今回から2回になりました。

これからも、町民の皆様にわかりやすく、より多くの情報をお届けできるよう努めて参ります。

文責／中村 むつ子



議 長 野 利 則
副 議 長 永 野 利 則
委 員 長 中 村 武 次
副 委 員 長 川 間 哲 子
編 集 責 任 者 島 田 浩 樹

今号の表紙

6月8日に第73回沖永良部高等学校体育祭が行われました。(生徒会長：田中勇平さん 城ヶ丘中卒)

「龍翔鳳舞～力強く駆け上がり華麗に舞え～」のスローガンの元、1年生64名、2年生81名、3年生73名(大島特別支援学校沖永良部支援教室10名)が一生懸命競技する姿に頼もしさを感じたのと同時に感動と勇気をいただきました。



今号の表紙は熟山智奈都さん(和泊中卒)による選手宣誓です。